

技術情報①

花粉の汚れは、“お湯(50℃くらい)”で除去することができます

花粉は植物にとっては大切ですが、花粉症の方や車の塗装にとっては、とてもやっかいな存在です。花粉に含まれるペクチンが原因で、塗装に大きなダメージを与える場合があります。この春先特有の汚れである『花粉』の汚れから守り、キレイにする方法をお伝えします。

ステップ 1 花粉がついたら、まず洗う

花粉がついたら、まず洗車をするのが肝心。花粉がボディの上ではじけてペクチンが塗装にこびりつく前に洗ってしまえば、花粉もただの埃と同じように洗い流せます。

拭き上げはキークロスで

また洗車後の拭き上げ作業に、キークロスの掻き取り効果でキレイに花粉を取り去ることができます。これは意外と大きな効果があります。



ステップ 2 花粉が軽いシミになったら、熱い“お湯(50℃くらい)”に浸したキークロスで拭く

花粉がついて少し時間が経ってしまい、洗車しても落ちない場合は、お風呂より少し熱い程度のお湯に、キークロスを濡らして絞らずにそのまま拭き取ります。キレイになったら、乾いたキークロスで拭き上げます。



注意

厚手のゴム手袋を着用し、火傷に気をつけながら作業して下さい



バケツにお風呂より少し熱いお湯(50℃くらい)を汲み、キークロスを浸します



バケツからキークロスを取り出し、絞らずにボディを拭き上げます。キレイになったら乾いたキークロスで仕上げます

ステップ 3 花粉が完全なシミになっていたなら、熱い「お湯70℃」をかける

花粉がついて相当な時間が経つと、ペクチンが塗装の組織の中に浸潤(しみ込み侵す)していき、塗装の内部から組織を収縮させるような働きをします。これが強固にこびりついた「シミ」のように見え、洗車しても、お風呂より少し熱いお湯で拭いても落ちない場合があります。そんな時は、かなり熱い70℃以上のお湯を、シミのついた塗装に直接かけて、ヤケドしないようにキークロスで拭き取れば、跡形もなくキレイになります。



70℃以上のお湯をかけてキークロスで拭き取ればすっきりキレイに!

ステップ 4 しかし不思議なことに、どんな花粉のシミでも、夏になって気温が上がると自然に消えてしまいます

花粉のシミはペクチンが原因です。これはただ単にその粘り気で塗装にこびりつくだけでなく、塗装の中に浸潤して、塗装の組織を収縮させるような働きを持っています。これが頑固な花粉のシミに見えるわけです。このペクチンは一定の温度により熱くなると壊れて、塗装の組織を収縮する力を失って、結果、花粉のシミが消えることが解っています。だから、熱いお湯をかければ花粉のシミが消えるのです。ポイントは「熱」です。夏を迎えて気温が高くなれば、ボディは50℃以上、時には70℃を越す場合もあります。すると、お湯をかけたのと同じような効果で、ペクチンが壊れ、花粉のシミが消えてしまうのです。

結論

花粉は、放っておくと塗装に頑固なシミを作ります。50℃のお湯に浸したキークロスで拭くか、ひどい時には、70℃のお湯を直接かければキレイに取れます。気になるお客様がいたら、ぜひキレイにして差し上げたいものです。でもこれは、夏の暑さで自然になくなってしまふ不思議なシミでもあります。

花粉のシミ消すためにやってはいけない危険な方法

花粉のシミを消すポイントは「熱」です。そのため、塗装面の温度を上げることが目的であれば、いろいろな方法があります。しかし中には、やってはいけない「危険な方法」もありますので、ご紹介します。

①ヒートガンは危険なので使わない!

ポイントが熱ならば、塗装面の温度を上げる方法として、ヒートガンでも良さそうです。しかし、ヒートガンは電熱線で空気を直接熱するので、塗装にダメージを与えるまでの温度に上がってしまう危険性があります。



ヒートガンは塗装にダメージを与える危険性があります

②スチームクリーナーも危険です!!

スチームクリーナーでスチームを噴きかけても塗装面があまり温まりませんが、スチームクリーナーのアタッチメントにクロス巻き付け、70℃以上のスチームを出しながら、アタッチメントの口を塗装面に直接くっつけて続けることで、効率的に温めることができたため、実際にこの方法を試したこともありました。

スチームクリーナーのアタッチメントにクロス巻き付けて使用は危険



しかし、高熱の中、巻き付けたクロスが塗装面と接触し続けることになるので、クロスの色や跡が塗装面にうつってしまう危険性があります(クロス以外にもいろいろな素材を試しましたが、完全に解決できるものはありませんでした)。

花粉のシミ消しに、ヒートガン、スチームクリーナーは使わないでください。花粉のシミをなくすには「お湯」もしくは「夏まで待つ」です。

花粉のこびりつきを防ぎたいときは...

花粉のシミを除去した後は、キークロスコーティングで塗装を保護しておくことをおすすめします。特に、無機質のボディガラスコーティングであるクリスタルキークロスとダイヤモンドキークロスは、花粉のこびりつきやシミを防ぐのに、かなり効果があります。

技術情報②

頑固な石灰の汚れに、お酢が効きます



石灰のついた車の塗装

車に付く石灰汚れの原因は、主に炭酸カルシウム(石灰石)です。石灰石は、セメント工場や製鉄所などで原料として使用されており、工場から飛散した石灰石の粉末が車に降りかかることがあります。ほおっておくと頑固にこびり付き、洗車ではなかなか落ちなくなります。ほぼ爆白ONEで落とすことができますが、かなりひどく付着していると、爆白をしても、研磨作業をしても全く落ちない場合があります。あるキークロスショップ店様から、爆白ONEや研磨作業で落ちなかった頑固な石灰汚れが「お酢」で簡単に取れたと、教えていただきました。

●テスト風景



テスト板は、頑固な石灰汚れを作るために、塗装板の上に石灰石を振りかけ、その上から純水をスプレーした状態で1週間放置。

当社、技術開発センターで、塗装板を使って再現テストを実施。石灰汚れの上に「調理用のお酢」をかけると、軽く擦るだけでみるみる汚れが落ちていきました。爆白ONEと比較しても、爆白ONEでなかなか落ちなかったものが「お酢」で簡単に落ち、お酢が非常に有効であることがよく分かりました。お酢は、酸性ですが塗装に対して安全性が高く、安心して使用できます。